

# PCBの歴史

約80年前に生産が開始されました。日本では1954年(昭和29年)から生産が開始され、1972年(昭和47年)までに約5万4千トンが生産・使用されました。

しかし、1968年(昭和43年)に発生したカネミ油症事件を機にPCBの毒性が大きな社会問題となり、1973年(昭和48年)に制定された「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(翌年施行)」により製造・輸入・使用が原則として禁止されました。

PCBの処理は、これまで施設の整備が進まなかったことから、約30年の長期にわたり事業者による保管が続いています。

また、平成3年の「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下「廃棄物処理法」と言います。)」の改正で、PCB廃棄物は「特別管理産業廃棄物」として、厳格な管理が義務付けられています。

## ■ PCB年別使用量



## ■ PCB 関連年譜

1881	PCBの合成(ドイツ)
1929	工業生産の開始(アメリカ)
1954	日本で生産開始
1968	カネミ油症事件(毒性の社会問題化)
1973	化学物質審査規制法制定(輸入・製造・使用の原則禁止)
1992	廃棄物処理法改正(特別管理産業廃棄物制度)
1998	廃棄物処理法施行令改正(化学的な処理方法の追加)
2001	PCB特別措置法制定